研究科長・学部長の任期を終えるにあたり

研究科長・学部長　岩澤　康裕（化学専攻　教授）

2005年4月に研究科長・学部長の任について以来，早いものであっという間に2年間が終わろうとしております。早いような遅いような実に不思議な感覚を味わっているこの頃です。この2年間，教員，職員，学生の皆様にはご理解とご協力をいただき，心から感謝しております。

研究科長・学部長の前3年間，評議員を務めましたので都合5年間，それまでの研究者教育者人生とはかなり違うたいへん貴重な経験をさせていただきました。評議員の3年間は法人化を挟んでの組織変革の期間であり，佐藤研究科長，岡村研究科長のもとで理学系・理学部憲章の策定，自己点検外部評価指針の作成，研究科・学部の組織図構築〔トップダウン戦略とボトムアップ意思の融合，委員会の改編，室体制（学生支援室，国際交流室，環境安全管理室，広報室，ネットワーク室）など〕，理学系・理学部の中期目標・中期計画作成などをWG主査としてWGの皆様と一緒に考え策定し，実施致しました。それらを受けた形で研究科長・学部長になってからは，懸案の生物情報科学科が無事新設され，男女共同参画室設置，広報充実，広報・科学コミュニケーション教員採用，また山本智先生（広報委員長）にお願いし高校生に特化した「サイエンスカフェ本郷」の開始，日経BPムック「東京大学理学部」刊行，男女共同参画活動計画策定が実現致しました。企画室および教務委員会で検討し，塩谷先生（当時教務委員長）を中心に申請し採択された「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「理学系大学院教育先導プログラム」の教育カリキュラムは，大学院教育高度化の先鞭をつけたものです。国際性の観点から全専攻に少なくともひとつは，国内外双方向TV会議が可能な会議室が整備され，また，小柴ホール，化学本館講堂を改修し，国際トップクラスの会議施設となりました。現在は2号館講堂を改修整備しているところです。また，理学部1号館前に山川健次郎元総長（元物理学教室教授）の胸像が設置され，植物園には江戸時代の小石川養生所の一部復元が実施の運びとなっております。これらは関係教員・職員の皆様のご理解とご協力により実現したもので，あらためてここに深く感謝申し上げます。

最近，社会および大学における基礎科学の存在感とあり方が問われております。大学と社会との関わりは実に多様になっています。傑出した研究成果を継続して生み出す努力を怠らないことは当然ですが，同時に研究成果を社会に理解してもらう努力をする必要性が増しております。基礎科学の進歩と深化が，技術におもねる社会の知識と理解から見えない状況を整理改善し，基礎科学が人類叡智の文化であることの理解と国民的コンセンサスを得るための方策と，体制の整備が必要です。高度教育・人材育成の担い手が基礎科学であることも説明することが肝要です。自由な発想に基づく研究の基盤となる，若手研究者のための運営交付金が不足しております。最先端科学の研究教育環境，とくに若手研究者（博士課程学生，ポスドク，助手―助教授）から見た魅力ある研究教育環境の構築では，国際一流大学に遅れをとっています。女性研究者教育者の比率も依然として低い状況にあります。博士課程学生の経済支援策も国際常識からは余りにもかけ離れております。これらはわが国の基礎科学を先導する本理学系が意識して取り組むべき課題と考えます。

最後になりますが，一緒に理学系研究科・理学部の運営・改革，問題解決に取り組んでいただいた教員，職員の皆様，とくに副研究科長，研究科長補佐など企画室メンバーの皆様，各委員会の皆様，専攻長・学科長・施設長の皆様，事務長をはじめとする事務の皆様に支えていただきながら研究科長・学部長を務めることができましたことに，深く心から感謝申し上げます。